

●佐古和枝（さこかずえ）

ーメッセージー

山元町で昨年発掘された古代の遺跡群、特に合戦原の横穴墓群や線刻壁画は、考古学界でも大きな発見として注目され、マスコミも賑わせました。なぜ、大きな発見なのか。遺跡から何が分かったのか。当時の山元はどんなところで、人々はどんな暮らしをしていたのか、皆さんと一緒に当時に思いをはせたいと思います。

ープロフィールー

鳥取県米子市出身

同志社大文学部卒、同大学院博士前期課程修了。日本考古学専攻。関西外国語大非常勤講師などを経て、2004年から同大学教授。長崎県文化財審議委員、特別史跡原の辻遺跡発掘調査指導委員、福岡県立歴史資料館評議委員、山陰遺跡ネットワーク会議代表など考古学の成果を広く一般に伝えるために、研究・執筆のかたわら、市民講座やイベントを多数企画・主宰。著作物も「考古学はたのしい」3巻（小学館）、「ようこそ考古学の世界へ」（中央公論新社）など、考古学を専門外の人達に楽しく、分かりやすく伝えるものが多い。島根県雲南市の創作市民演劇『異伝ヤマトノオロチ』の原作など、ユニークな著作もある。鳥取県妻木晩田遺跡の保存運動に取り組み、妻木晩田遺跡の普及・活用にむけた活動も続けている。



●永井康雄（ながいやすお）

ーメッセージー

大名の社交では茶の湯は大きな役目を果たしました。伊達家の代々の藩主も茶道を重んじたため、家臣たちにも広まりました。仙台城内や有力家臣の邸宅には茶室が建てられましたが、残念ながらほとんど残っておりません。山元町の茶室は大條家ゆかりのものという伝来経緯がはっきりしています。仙台藩に花開いた茶の湯文化を伝える最も貴重な建物について考えてみたいと思います。

ープロフィールー

1961年、埼玉県川口市生まれ。

東北大学大学院修了。博士（工学）。東北大学大学院准教授を経て、2010年から山形大学教授。専門は日本建築史。東日本大震災では、文化庁の文化財ドクター派遣事業の東北地方責任者として2700棟以上の歴史的建造物の被災調査・州復興技術支援を指揮した。宮城県文化財保護委員会、旧有備館及び庭園保存整備委員会、仙台城跡調査指導委員会、大崎市文化財保護委員会など多くの自治体で委員などを務める。



●問い合わせ：特定非営利活動法人ポラリス

[TEL]0223-36-7410

[MAIL]activities_polaris@yahoo.co.jp

●主催：特定非営利活動法人ポラリス

●助成：三菱重工みやぎ・ふくしまミニファンド

●協力：大條家ゆかりの茶室の保存と活用を願う会

ゆかりの茶室にひかりを当てるっちゃGO 山元「いいっ茶」組

★ すぐにはたらく・たのしむ・学ぶ ★

私たちポラリスは、障害のある人自身が
自己選択・自己決定をして
地域ですてきな生き方・はたらき方ができるよう応援します。

特定非営利活動法人ポラリス

